様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６１４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０２２８

研究課題名（和文）森家所蔵森敦自筆資料による基礎的研究

研究課題名（英文）Basic research by the Atsushi Mori's autographic material Mori's home possesses

研究代表者
井上　明芳（INOUE, Akiyoshi）

國學院大學・文学部・准教授

研究者番号：９０６１４２６４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：　本課題研究は、森家の所蔵する森敦自筆資料について全体像を示すことを目的としている。これまで未公開であった膨大な森敦自筆資料について、小説、評論、エッセイ等に分類し、それらを発表誌等の書誌的な事項に基づいて一覧化した。その成果は『森敦資料目録』として公開した。
　森敦文学の草稿や紙片等の調査を行い、生成過程を跡づけた本課題研究は、森敦文学の基礎的研究としての成果をあげている。とくに代表作「月山」については、すべての草稿類を翻刻し、それぞれの草稿の内容的、表現的な関連についても明らかにした。
　同時に「月山」の舞台である山形県鶴岡市七五三掛地区の現地調査も行い、作品の虚構性を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This challenge study is intended to show the whole picture of Mori Atsushi autograph materials holdings of Mori's home. For this to huge Mori Atsushi autograph material was unpublished, novel, critic, classified into essays, etc., was a list of on the basis of bibliographic matters such as those announced magazine. The results were published as "Mori Atsushi material inventory."
Conducted a survey such as the draft and a piece of paper of Mori Atsushi literature, this challenge studies that support for the production process, has made the efforts of basic research of Mori Atsushi literature. In particular masterpiece for the "Gassan" is, to reprint all of the draft class, terms of content of each of the draft, also revealed for the expressive association.
Done at the same time "Gassan" field survey of Tsuruoka, Yamagata Prefecture Shimekake district is a stage, it revealed the fiction of the work.

研究分野：日本近現代文学

キーワード：森敦　自筆資料　草稿　翻刻　現地調査　月山　目録

１．研究開始当初の背景

本課題研究は、森富子氏とともに個人的に代表作「月山」の自筆資料の調査、分類を行っていたことが着想の発端となった。森家に保管されている森敦の自筆資料は、「月山」以外のものも膨大である。「月山」に限ってみても、その量は一人で調査を進めるには困難であった。そこで本研究課題を構想し、私の所属する大学内に研究会を組織して、組織的に調査することとした。著作権継承者である森富子氏からご快諾を得られ、全面的な協力が得られることとなった。

学内で研究会が組織できれば、作家の自筆原稿の調査のため、大学院生や学部生にとっても貴重な経験となり、教育的にも有効な研究となる。また、自筆資料の調査、分類といった研究は、森敦研究の基礎的な基盤を形成するという寄与を果たせ、今後さらに研究が発展していくことが期待された。

さらに、森富子氏は森敦の作品制作に深くかかわってきたため、資料的背景も熟知している。富子氏に取材することで、資料の時代的執筆背景についてより詳細に把握ができる。また、メモ類に至る資料をも保存されているので、森敦文学研究の生成論的な方法においては希有な成果を示すことも考えられた。

したがって、森富子氏と研究開始以前より綿密に打ち合わせた。とくにすでにはじめていた「月山」資料の調査における問題点なども反省し改善することで、本課題研究の全体的な指針がまとまった。資料の分類についてジャンルや把握の仕方、方法などを決めた。その際『森敦全集』編纂時の方針が参考となった。むろん、想定外の資料が発見される場合もあるため、その際はそのつど話し合いこととした。

研究開始当初から森家に所蔵されている森敦資料を全面的に開示していただいたため、研究は極めてスムーズに始められた。

２．研究の目的

本課題研究の目的は以下のようである。

(1) 森家所蔵森敦自筆資料について、調査し分類して全体像を明らかにする。

(2) 全体像を示すために目録を作成し、森敦研究の基礎的な基盤を形成する。それによって森敦文学の生成過程を明らかにする。

(3) 森敦の文学的な営為について、森富子氏をはじめとした関係者に取材したり、描かれた土地の調査に行ったりするなど、自筆資料を多角的な視野で分析する。

３．研究の方法

本課題研究は、自筆資料の調査、分類を最大の目的としている。しかしながら、自筆資料に直に触れることは保存の観点から避け、すべての資料についてデジタルカメラにてデジタル撮影を行った。データ量は膨大となり、その仕分けを行い、アクセスに支障を来さないようシステムを構築した。

資料データはタブレット端末等を利用して閲覧し、調査、分類を行った。分類は、小説、評論、エッセイ、講話などのジャンルで分けた。それぞれをさらにメモ、断片から草稿類、完成稿として分類した。それによって作品の生成過程の図表的な把握が可能になる。その際、書誌的な事項についても合わせて調査し、生成過程をより精緻にした。未発表作品も発見されたため、これらは執筆時期について富子氏に取材して、その推定を行った。書誌に関しても国会図書館をはじめ、所蔵が不明は雑誌等もあったが、これらについては周辺資料からの類推を行い、書誌的事項として把握した。

また、調査過程で森敦の代表作「月山」については、すでに整理がなされていたが、それをもう一度精査した。見落としなども散見されたが、今回の精査によって資料それぞれの内容に踏み込み、「月山」が完成するまでの過程が明らかとなった。本課題研究が企図していなかった成果が得られたため、すべての「月山」資料について翻刻を行い、資料の相互関係を明らかにした。

これを通じて判明したことがある。すなわち、森の文学理論「意味の変容」の具現化がなされているということである。内部／外部・境界線という森敦が生涯を貫いて思索し続けた文学理論が、それぞれの「月山」草稿に単独で見られるとともに、相互に連関するところにも認められた。つまり、「月山」の生成過程は「意味の変容」理論で捉えることができるのである。

また、描かれた土地である山形県鶴岡市七五三掛地区を中心に現地調査を行い、作品の実体的な背景を探り、注釈として付した。これによって現実／虚構の内部／外部が見出された。ここにも「意味の変容」理論が適応された。

このことから、目録は「意味の変容」理論を踏まえるべきという方向性を得ることができたため、研究の方法の基底の一つとして、常に意識的に捉えることとした。

４．研究成果

本課題研究に研究成果は３点挙げることができる。

(1) 森敦の代表作「月山」について、自筆草稿類すべての翻刻によって、資料的側面による生成過程を明らかにし、同時に「月山」の舞台である山形県鶴岡市七五三掛地区や注連寺などの現地調査を行うことで、作品の実体的な背景を明らかにした。この２側面から「月山」の虚構性が明らかにでき、それが森敦が生涯をかけて思索した文学理論「意味の変容」の具現化として捉えられることも示すことができ

た。以上は『森敦「月山」総合的研究』としてまとめ、発表した。これをまとめるにあたり、「意味の変容」理論、とくに内部／外部・境界線の理論を意識し、「月山」について、草稿面、調査面だけではなく、理論面からも言及し総合的なアプローチを行っている。

(2) 森敦自筆資料の調査、分類を通じて得られた知見、とりわけ森敦の最重要作品「月山」と「意味の変容」との関連性を中心に、研究成果報告を行った。これらの成果が敷衍され、森敦の晩年の大作「われ逝くもののごとく」へのアプローチとして展開された場合の可能性についても言及した。

同時に教育的側面として、私が組織した研究会に所属する大学院生、学部生たちによるアクティブ・ラーニングも実践し、大学での学修に最先端の研究を取り込む試みとなった。

学生たちの主体的な作品や理論へのアプローチに基づいて、それぞれテーマを決めてパネル発表を行った。この協働的作業を通じて、森敦文学の研究の可能性を示すことができた。

また、森富子氏と黒井卓也氏にそれぞれ森敦について講演していただき、森敦という作家像を浮かび上がらせた。森富子氏は森敦の文学営為を間近で手伝ってきたことから、講演はまさしく遺族ならではであるとともに、森敦の執筆への想いや情熱が伝わる内容であった。

黒井氏は鶴岡市在住で、森敦が取材に訪れた際には案内役をしていた方であり、森敦の取材態度や作品に描かれた風景へ解釈など、貴重な内容の講演であった。鶴岡市は山形県庄内地方の都市であるが、森敦文学が描く内容と地域振興とが結びつく可能性について考えさせた。

(3) 森家所蔵森敦自筆資料について、当初の目的通り、調査、分類を行い、目録を完成させた。保存されていた膨大な資料は自筆草稿をはじめ、メモ類や断片に至っている。そのため、書誌的な事項や森敦の執筆時期、ラジオ、テレビへの出演時期などを台本などを調査し、その内容と照らし合わせ、メモ類や断片の分類を行った。

以上の成果は『森敦資料集』としてまとめ、発表した。ただし、著作権や所有権の関係に配慮した部数となっている。

以上の成果から、研究目的として掲げた内容は達成できたと考えられる。とくにこれまで未公開であったため、森敦自筆資料の全体像を分類して目録としてまとめて公開できたことは今後の森敦研究の基礎的研究に大きく寄与でき、これによってさらに研究が進展することが期待される。

ただし今後の課題も見えてきている。一つにはメモ類や紙片等についてより精細な調査を行い、より精確な分類を行うことである。森敦は原稿の切り張りを行っているため、その糊が経年劣化しはがれてしまっている個所もあり、その特定にはさらに時間をかける必要がある。

もう一つは細かく保存された自筆資料から作品ごとの生成過程の特質を明らかにしていくことである。これによって、森敦文学の基礎的研究の発展が期待される。とくに「われ逝くもののごとく」の膨大な書き換えについては、「月山」に見られた生成過程とは違う内容を引き出せる可能性があり、それが「意味の変容」の具現化として捉えられれば、森敦文学の理論について研究の焦点を深めていけるであろう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　２件）
①井上明芳、森敦文学の境界的思考、図書、査読無、807 号、2016、pp.22-27
②井上明芳、森敦研究の可能性－生成過程と実地踏査から－、昭和文学研究、査読有、第 70 号、2015、pp.40-42

〔学会発表〕（計　０件）

〔図書〕（計　２件）
①井上明芳、國學院大學、森敦資料目録、2016、369
②井上明芳、國學院大學、森敦「月山」総合的研究、2014、471

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：
〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

井上明芳（INOUE,Akiyoshi）

國學院大學文学部・准教授

研究者番号：90614264

(2)研究分担者

(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者

(　　)

研究者番号：